

飼料情勢

1. とうもろこしのシカゴ定期は、9月には米国産の豊作見通しにより330セント／ブッシェル台で推移していたが、降雨による収穫作業の遅れなどから350セント／ブッシェル台まで上昇した。その後、11月9日発表の米国農務省需給見通しで、単収が上方修正され史上最高の生産量が確定的となったものの、輸出需要が好調なことから底堅い展開となり、2月9日発表の米国農務省需給見通しで期末在庫が下方修正されたこと、輸出需要が引き続き好調であることなどから、現在は370セント／ブッシェル前後となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、9月には340ドル／トン前後で推移していたが、米国産大豆の豊作見通しにより軟調な展開となり、330ドル／トン前後となった。その後、11月9日発表の米国農務省需給見通しで、生産量が上方修正され期末在庫が増加したものの、輸出需要も好調であることから底堅い展開となり340ドル／トン前後で推移していたが、1月12日発表の米国農務省需給見通しで、生産量が予想外に引き下げられ期末在庫が減少したことから上昇し、さらにアルゼンチン産大豆の多雨による生産量減少懸念から380ドル／トン前後まで値上がりした。現在は、アルゼンチンの天候が改善し生産量減少懸念が後退したことから370台ドル台となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、9月には33ドル／トン前後で推移していたが、中国むけ石炭などの輸送需要が好調であることに加え、北米産新穀の輸送需要が本格化したことなどから40ドル／トンを超える水準まで上昇した。その後需要が一服し、現在は30ドル／トン台後半となっている。
4. 外国為替は、9月上旬には103円前後であったが、米国の利上げが見送られたことなどから101円前後まで円高がすすんだ。その後、米国経済指標の改善を受けた12月の利上げ期待の高まりから円安となり、米大統領選でトランプ候補が勝利し、インフラ投資や大型減税などの経済政策に対する期待が高まったことからさらに円安がすすんだが、トランプ新大統領の政策に対する不透明感から円高となり、現在は113円台となっている。

